

会 議 録 要 旨

1. 会議名称	令和5年度 第2回 恵庭市公営企業経営審議会
2. 開催日時	令和6年3月21日(木) 14時00分～15時30分
3. 開催場所	恵庭市民会館2階 視聴覚室
4. 出席者名	<p>【委員】 宇野 二郎 中川 淳一 阿部 和之 日比野 卓也 茶園 利紀 須藤 進 熊谷 洋子 橋本 千津子 本多 利恵</p> <p>【市側】 (水道部部長) 小林 勉 (水道部次長) 江蔵 正治 (経営管理課長) 畑 拓哉 (同主査) 高橋 豊 (同スタッフ) 小山 尚基 (上水道課長) 長谷 晃司 (下水道課長) 平井 誠</p>
5. 審議会の経過	<p>※以下は、事務局が発言の要旨を要約しており、いわゆるテープおこしをしたものではありません。</p> <p>(1) 開会</p> <p>(2) 会長挨拶</p> <p>(3) 報告事項</p> <p style="text-align: center;">【令和6年度 公営企業会計予算(案)について(資料①)】～【ウォーターPPPの導入について(資料⑧)】の各報告ごとに、説明と質疑を行う形式とした。</p> <p>○令和5年度 公営企業会計予算(案)について(資料①) ※経営管理課長より説明。</p> <p><質疑応答></p> <p>(委 員)</p> <p>資料④とも重複する部分があるが、資料①の1ページに「地震に弱いとれる塩化ビニル管(TS継手)について耐震性を有する管への更新を優先的に行います」と記載があるが、これまで耐震化を目的として更新されてきたダクティル鑄鉄管は硬く、柔軟性がないイメージがあるがどのような特徴があるか。また、今後は更にポリエチレン管に変更するのは何故か。</p> <p>(説明員)</p> <p>ダクティル鑄鉄管は強度が高く、耐久性もあることから、耐震化にも適合した管である。現在採用しているダクティル鑄鉄管NS形E種及びポリエチレン管1種2層管については、今後、耐久性及び費用面においてより効果の高い配水用ポリエチレン管を採用していく予定である。</p>

(委員)

4ページのバイオガス発電事業収益が昨年度と比較し減少しているのは何故か。

(説明員)

経年劣化に伴い発電効率が低下することや、施設の稼働状況によりバイオガスの発生量の変動するため等である。

(委員)

機器のメンテナンスは行っていないのか。

(説明員)

メンテナンスは随時実施しているが、経年により発電効率は低下してしまう。

(委員)

災害対策について、5ページに緊急貯水槽設置事業を令和5年度に前倒しして実施することになったと記載があるが何故か。また、設置箇所及び規模についても伺いたい。

(説明員)

水道事業における所管が令和6年4月1日より現在の厚生労働省から国土交通省及び環境省に移管されることに伴い、移管後の官庁において予算が確保される保証がなかったことから令和5年度中に補正予算を組み、前倒ししたものである。また、設置箇所及び規模については恵庭市民会館の芝生広場内において植栽等への影響が少ない箇所に100t規模の緊急貯水槽を設置予定。

(委員)

5ページの資本的支出が令和4年度をピークに減少しているのは何故か。

(説明員)

国からの交付金の拡充等もあり、令和2年から令和4年において集中的に更新作業を実施したことからこの間における資本的支出(工事費)が増額している。更新が必要な塩化ビニル管(TS継手)について、約54kmのうち、令和5年度末で約33kmの更新が完了した。進捗率は60.9%。今後についても恵庭市水道事業管路更新計画に基づき令和11年度末までに更新が完了できるよう進めていく。

(委員)

緊急貯水槽の着工については令和6年度からで間違いはないか。また、1ページの緊急貯水槽整備事業に記載のある植生整備工事とはどのようなものか。

(説明員)

緊急貯水槽の本体工事着手については令和6年度である。また、植生整備工事とは緊急貯水槽の本体工事に伴う樹木の植え替え等に要する費用である。

(委員)

確認であるが、先程の説明のあった塩化ビニル管(TS継手)の更新進捗率60.9%とは上水道に係る管路で間違いないか。

(説明員)

上水道にかかる管路で間違いない。

(委員)

下水道も同様に耐震化にかかる更新が必要であると思うが、下水道管の耐震化の進捗率はどうなっているか。また、合流式下水道の分流化についても進捗状況をお伺いしたい。

(説明員)

下水道管の耐震化について、管渠は令和5年度末で約69%、終末処理場は令和5年度末で約43%。どちらも耐震化計画に基づき進めているところである。また、分流化事業については令和5年度末で約81%が完了しており、令和7年度末の完了を目標に進めているが、物価高騰等の影響により若干延長する可能性はある。

(委員)

3ページに耐水化を図ると記載があるがこれはどのようなものか。また、市内において同様に浸水のおそれのある箇所はあるのか。

(説明員)

豪雨等の浸水被害に対応するため、ポンプの基盤の高さを上げる工事を予定している。その他の箇所についても、次年度より浸水のおそれがあるかを調査し、想定区域図を作成する予定である。

(委員)

2ページの資本的収支について、出資金・補助金及び固定資産購入費の令和6年度予算が0円となっている理由はなにか。

(説明員)

出資金・補助金については耐震化事業に係る事業費のうち通常の耐震化事業に上積みして実施する費用における一般会計からの繰入金になるが、令和6年度は通常の事業費を超過しないことから0円となっている。固定資産購入費については新たな備品の購入を予定していないため0円となっている。

○恵庭市水道事業給水条例の改正について（資料②）

※上水道課長より説明。

<質疑応答なし>

○恵庭市排水設備指定工事店に関する規程の改正について（資料③）

※上水道課長より説明。

<質疑応答>

（委員）

利用者側への利点あまり見受けられなかったが、改正する理由はなにか。

（説明員）

現在では水洗化が進み、排水設備等の新設等の工事においては、必ずしも給水工事を同時に施工する必要性がなくなっていることから、事業者側への制限を緩和するものである。

（委員）

恵庭市排水設備指定工事店の数について、ここ10年程度の事業者数の変動はどうなっているか。

（説明員）

ほぼ横這いである。

○水道配水用ポリエチレン管の採用について（資料④）

※上水道課長より説明。

<質疑応答>

（委員）

配水管から各家庭への給水管へ分岐するサドル分水栓について、今回採用する配水用ポリエチレン管のサドル分水栓（EFサドル）はこれまで採用していたものよりも工事の際に事業者側の手間がかかるという話を聞いている。事業者側への対応はどうなっているか。

（説明員）

これまで他市の採用実績や本市での試験的採用結果を基に説明会を開催し、事業者側の疑問点について説明を行ってきた。配水用ポリエチレン管の採用対象工事は

本市が発注する配水管布設・布設替工事および開発行為等における配水管布設工事となっているが、その他の事業については引き続き鋳鉄製サドルの採用を可とすることを考えている。また、災害時における断水の要因としてサドル分水栓の破損が多くあげられるため、耐震化の目的からも採用に至ったものである。

(委員)

以前に他市において、ガソリンスタンドからガソリンが漏れて給水管に混入したという事案があったが、今回採用する配水用ポリエチレン管は同様の危険性はないのか。

(説明員)

耐油性のポリエチレンスリーブという袋状のシートを管に被せることによって混入を防止する設計としている。

○能登半島地震に係る応急給水支援について (資料⑤)

※上水道課長より説明。

<質疑応答>

(委員)

まずは今回の応急給水支援について敬意を表したい。今回、給水支援活動を経て、本市に活かしたいと感じる点があればお聞きしたい。

(説明員)

珠洲市での応急給水支援については仮設水槽への給水が主だったが、被災時の混乱した状況下において、他市等からの応援給水支援を受ける場合には仮設水槽の利便性を感じた。また、本市が現在行っている管路の耐震化についても確実に進めていきたいと思う。

○水道GXの取り組みについて (資料⑥)

※経営管理課主査より説明。

<質疑応答>

(委員)

新電力に切り替えることによって光熱水費はどうなるのか。

(説明員)

新電力に切り替えることによって僅少ではあるが安価となる。

<p>(4) その他</p> <p>(5) 閉会</p>	<p>○下水道GXの取り組みについて（資料⑦） ※下水道課長より説明。</p> <p><質疑応答なし></p> <p>○ウォーターPPPの導入について（資料⑧） ※下水道課長より説明。</p> <p><質疑応答></p> <p>（委員） 資料にウォーターPPPの導入が社会資本整備総合交付金の要件化とあるが導入しなければ交付金が受けられないということか。また、重要な下水道のインフラにおいて民間のマネジメントが拡充することに不安を感じる人もいると思うがそのことについてどう考えるか。</p> <p>（説明員） 交付金の内容にもよるが、污水管の更新事業においてはウォーターPPPを導入しなければ交付金を受けられなくなる。また、内閣府のPPP/PFI推進アクションプラン(令和5年改定版)にて今後のウォーターPPP導入の方針が示されているところであるが、日常生活に欠かせない下水道インフラを安定的に運転・維持管理を行うために導入の可否について慎重に検討していきたい。</p> <p>（委員） ウォーターPPPについては急に出てきた話だと感じており、海外などにおいて上下水道を民営化したことによる問題点なども耳にしていることから不安を感じている。</p> <p>（説明員） 今後、民間のマネジメント範囲が拡充する際にどのように市が確認し、情報を公開していくか、また、各家庭に安心・安全な水を配水するために管路の維持管理をどのように運営していくかという体制の構築が重要であると考えている。ウォーターPPPの導入に関しては様々な観点から導入の可否を検討し、慎重に進めていきたい。</p> <p>○今後のスケジュール・委員報酬等の支払いについて ※経営管理課スタッフより説明。</p> <p>終了時間 15：30</p>
------------------------------	---